

第137図 土壙出土遺物（3）

に陶磁器を示す。148～163が第377号土壙の陶磁器で、153は蛇の目釉剥部に上絵付する肥前系磁器皿、154は白天目である。瓦質土器火鉢（159）に「りキ」、瀬戸美濃系陶器皿（160）に「しモ」の墨書、肥前系磁器鉢（152）に焼継印、天目茶碗（157）に焼成前の刻書が認められる。なお、重複

関係の無い第383号土壙の磁器皿（第158図195）と接合が確認された。164～178は第378号土壙の陶磁器で、肥前系磁器碗（168・172）に被熱痕が認められる。非掲載資料でも陶磁器131片中30片が被熱を受け、その中に磁器広東碗が含まれることから、18世紀末以降の火災に係る可能性がある。第201図



第138図 土壙出土遺物（4）

2・3は、第378号土壙出土の建築部材で、3は土蔵の柱材である。全てに炭化痕跡がある。他に第211図80・81に示す鉄釘が出土している。

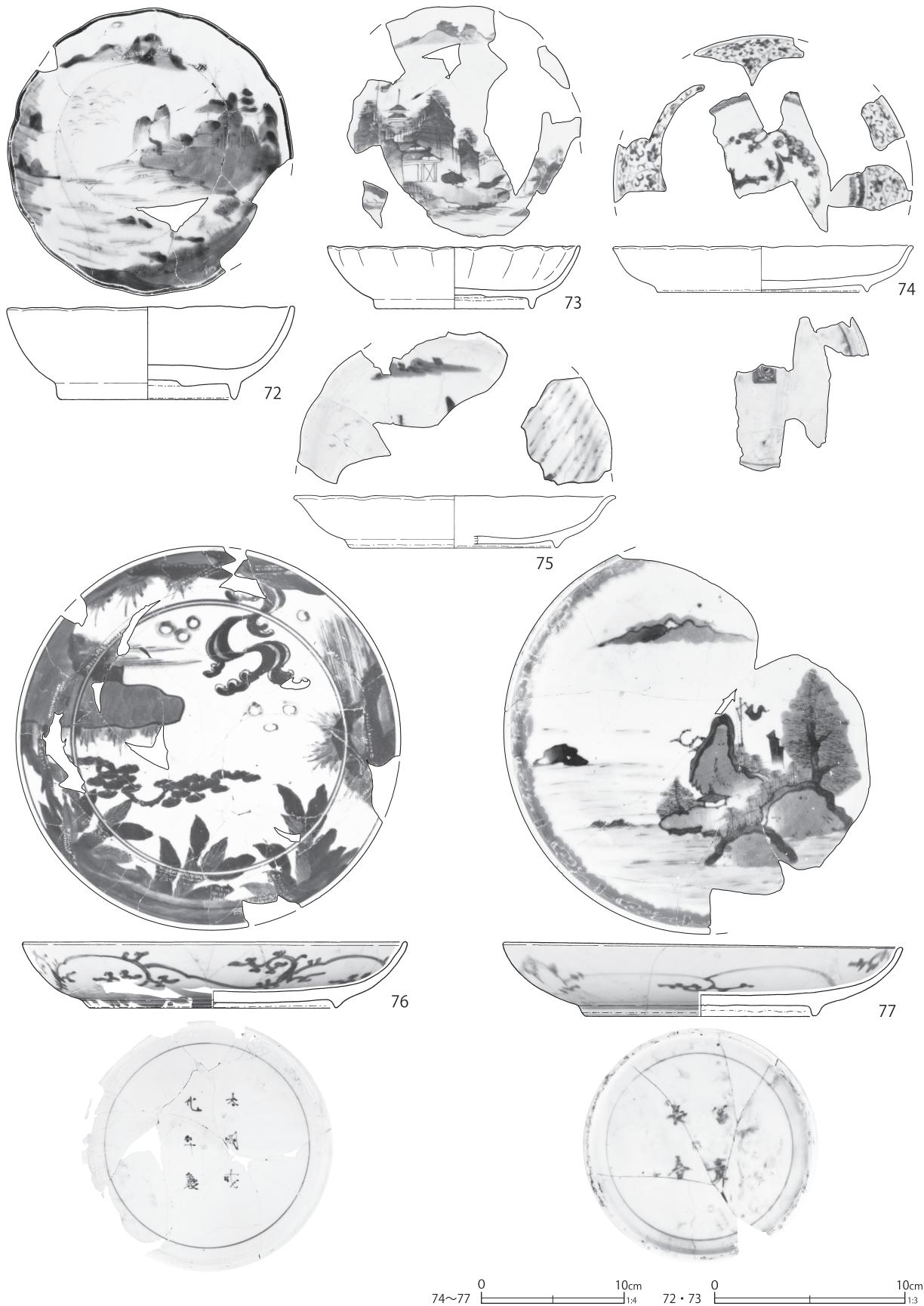
第387号土壙（第124図）

C 6-G 6 グリッドに位置する楕円形の土壙で、木製品が多く出土している。第158図197～

204は陶磁器で、199の磁器筒形碗から、19世紀初頭以降の土壙と考えられる。第204・205図26～36は木製品である。26・27は漆器、30・31は下駄、32～35は箸である。34のみ端部も先尖状に加工される。36は板材に穿孔する木製品で「マンボウ形木製品」や「宝珠形木製品」と呼ば



第139図 土壤出土遺物(5)



第140図 土壙出土遺物（6）